

8. 採卵鶏農場におけるサルモネラ衛生対策

大分家畜保健衛生所 1)宇佐家畜保健衛生所

○(病鑑) 山田美那子、高原幸三、丸山信明、1)長谷部恵理

【はじめに】サルモネラによる食中毒は近年減少傾向にあるものの、毎年継続して発生していることから、注意すべき重要な食中毒原因菌である。

今回、20万羽を飼養する採卵鶏農場において衛生検査で、*Salmonella* Braenderup(以下、SB)が分離された。本農場は、新たに農場HACCPの導入に取り組む予定であり、サルモネラ対策が特に重要であるため、農場の浸潤調査及び衛生害虫等を捕獲し侵入調査も実施したのでその概要を報告する。

【農場概要】当該農場の飼養規模は成鶏約20万羽、集卵所を併設している。卵は集卵ベルトで集卵所に集められ県外の直営のGPセンターへ出荷されている。鶏舎はウインドレス鶏舎4棟で、1棟を中央で仕切り8鶏群飼養している。

【検査材料・方法】検査材料：平成28年4月の衛生検査では1～4号鶏舎及び7、8号鶏舎の環境材料(床、塵埃、集卵ベルト)について計48検体行った。また、5月に5、6号の環境材料及び集卵所の集卵トレイ、コンテナについて計36検体行った。その後は、鶏群が廃鶏される毎に消毒・乾燥後の鶏舎環境材料について計187検体行った。また、初生ヒナ30羽の肝臓・卵黄嚢・小腸について検査を実施した。

検査方法：浸潤材料をペプトン水で増菌後、ハーナテトラチオン酸塩基礎培地で増菌、その後ノボピオシン加DHL培地及びノボピオシン加ブリリアントグリーン培地を用いて行った。分離されたサルモネラは血清型別は定法により行った。

【検査成績】4月の衛生検査では全ての鶏舎からSBが分離された。また、08群(型別不能)も分離された。5月の検査では、15/36検体でSBが分離された。その後の環境材料からは65/187検体でサルモネラが分離された。その多くはSBであるが、*S. Rissen*、*S. Corvallis*などが分離された。初生ヒナからサルモネラは分離されなかった。

【まとめ及び考察】

当該農場では、4、5月の結果を受けアウト後の洗浄・消毒方法の見直しを行った。現在洗浄時に逆性石けんを使用し洗浄効果を高め、その後発泡消毒、消毒薬の散布、乾燥後煙霧消毒を行っている。

サルモネラが検出されたときの浸潤調査では分離率は約50%であったが消毒方法及び作業方法の変更を検討した結果、検出率は徐々に低下し平成29年4月の時点の検査では8/40検体(約20%)に低下した。さらに分離された侵入経路や検出箇所を検討した結果、特定の場所での検出が多く見られたことから当該農場の危害管理点を卵ベルトとし、標本抽出法に基づく検体数による定期的な検査を実施することで危害管理点がコントロールできるものと推察された。